

富田敏夫

経営者

「莊嚴なる美を愛し、
新たな京都の方向性を示唆する男。」



TEXT by SHINOBU SUGITANI PHOTOGRAPH by TAKAYUKI NAKAJIMA

パリは倦怠の街だと思おうよ。

アダム&イヴコーポレーション
代表取締役社長、富田敏夫。「ア
ダム&イヴブランド」を世に送り出
したこの男一流の哲学のフィルタ
ーを通した目には、現在の京都、
未来の京都がどう映っているのだ
ろう。

御所 今月の『ネイキッド・アイ
ズ』は、アダム&イヴの富田さん
をお迎えして、若い頃いかに仕事
してなかったか、どれほど女の子
を泣かせてきたか、というウワサ
の真相に肉薄しよう……(笑)

富田 (笑)とんでもないウワサだ
ねえ。ボクの取柄といえば仕事一
途ということ以外ないんですけど
ねえ。

富田・御所 (爆笑)

御所 それはそついうことにしと
いて(笑)、コンテンポラリー(近代
的)なものを、陶器の中に求めたの
は(68年にアダム&イヴを設立し
た)当時の富田敏夫としては、必然

人間なんて大したことないね。

だった?

富田 ボクは学生時代、あなたも
大好きな音楽をやっていたね、「た
ち吉」の長女と結婚した、というボ
クの置かれた状況の中では、コン
テンポラリーなテールウェア
を作るのだな、と思ったのね。

「DOMUS」(建築系の雑誌)と
「ABITRE」(プロダクトデザ
イン系の雑誌)という2冊のイタ
リアの雑誌があって、これを学校
卒業した年に読んで「あ、これだ
」と思った。実際にボクのこの目で
確かめて思ったんだけど、イタリ
アの建築や環境計画、彫刻のスケ
ールって別格だったんだね。イタ
リア人の血は、ルキノ・ピスコン
ティの映画やベルサーチのフアッ
ションやオペラなんか脈々と流
れてるよね。美的妻みがある。

御所 美的妻み、莊嚴な美とい
ったようなものかな?

富田 パリにエレガンスはあるけ
どボクには倦怠感を感じない、

富田敏夫

●プロフィール 1939年4月21日、岡山県生まれ。同志社大学経済学部卒。和陶器の老舗「たち吉」より68年に独立。株式
会社アダム&イヴコーポレーション社長となる。アダム&イヴユニセクス商品で年商90億を超える会社に成長させる。

ロンドンも、バンクのお兄さんは
ガンバってるけど、まあダメだな。
国が寝てるんじゃないか。その点

イタリアは、血気盛んというの
かな。イタリアのクリエーションっ
てのはすばらしいんだけど、どう

してそつなつたのかっていうと、彼らが実際住んでる建物っていうのは、建てられてからもう4000年も5000年も経ってるでしょ。

御所 内側はどんなに変えてもいいんだけど、外枠はさわつたらアカンですよ、法律で決まってる。その歴史を経て、伝統を持った建物の中で、新しい、なにかインスピレーションのくるものを作ってたわけですね。

京都は新しくならなくていい。

なあ、なるほどねえ。ところで、あれこれやってきて、今振り返ってみるとどうですか。

富田 結果からいうと、まあ、張り切ってる若い人たちに水さすように悪いんだけど、人間なんて大したことないな、と(笑)。何にもできやしないんだな、ということですね。答えになってないかな。紀元2000年の歴史の中で、人間が行きついたところってというのは、自らの首を絞めているという状況だよ。廃棄物、飲食の有毒性、人間の思い上がりのツケがまわってきてる。となると、次の新



富田 そうさつ、4000年くらい前の建物の中に押し込められてフラストレーションが強いもんだから、何が新しい表現をしよう、となるよ。超人ダダンに走るしかなかったんだよ。表現したくて表現したくて、若い連中は怒ってる(笑)さつというのに比べたら日本のクリエイションはまだまだダメだね。すぐ「これは売れそうだ」という話になるから。

御所 凝縮度がたりないんだらう

しい人間像は、自然が人間に与えた恵みを殺してきた現代文明のありように気付いて、それを復活させる人間なんだろうと思うよ。

御所 京都はどう？ 今の京都は見てどう思う？

富田 京都にはねえ、この10年住んでないんですよ。住んでるんだけど、休息しかしてないんだ。だからバーにも行ってないし、夜遊びにも行ってない。毎月「クラブ・フェイム」を読んで、京都の若い人の動きを勉強してるとわかるけど(笑)、20代・30代が、若さと希望とチャレンジ精神に燃えててねえ。いいんだけど、でも、何を追い求めているんだらうなあ、とも思いますよ。

——うん、人もそつなつただけでも、街ね、建都1200年で盛り上がったって、京都ホテルの問題がクローズアップされる中で京都の街を、ここ10年住んでない、外からの目で見るってどう？

富田 京都は観光地に徹すればいい



いんだ、いわゆる近代化する必要はないんじゃないかと思うね。京都がここ10年何か進歩したかとい

えばさつというわけでもないし、なんだ京都の近代化ってこんな程度かと思えばね、逆に古くなって行けばいいんだよ。ベニスみたいになればいいんだ。ベニスは観光でとても儲かってるでしょ。京都市が瓦屋根の住宅を建てる人には低金利で資金援助する、なんていうのはどうだろう。

御所 極論すれば、京都ホテルも、45mの60mのいうような中途半端な話せんと、低いなら低いうことの中で、もっとエポックメイキングなものになる、というようにな

ことやってたら、もう少しちゃんと人を説得できたはずなんだよ。**富田** もっと世俗的にね、京都がもっとカッコイイ、日本の美意識を代表するような街になったらいいなと。

御所 あ、それ賛成(笑)。

富田 だから、桂離宮みたいなホテル建てればいいんだよ。

御所 ニューヨークじゃないよ

ね。今、京都にニューヨーク造ってもしょうがない。京都には京都の担うべき役割があるからね。

富田 そうさつ、だから御所をホテルにするとかね、京都ホテルが寺を買って、「買って」って言うってまた叱られるから(笑)、買わないまでも、タイアップして、それをホテルにしたらどう？ そうすればホテルと寺が仲良くできるじゃない(笑)。建築家の若林宏幸さんが、古い家の外枠をそのまま生かした建物をオフィスとして使ってるけど、あれはいいね。みんな、ああすればいいんだと思うよ。

御所 要は世界の中の住み分けを考えると、これは結構両極端なんです。都として1200年培われてきたよという中で、これを踏まえて世界の観光地としてしっかり守っていいよ、という一面と、逆にこれは過去の遺産なんだ、京都はその番人としての存在だけではないらね、またあつてはならないんだ、と。世界をあっと言わせる、斬新で、大胆で、強烈なことをやってしまえと、その中途には何にもないよ、つまり、中途半端なバランスの悪い新旧の共存共栄なんてありえませんが、するべきでないよ、という考え方



御所光一郎

クラブフェイム・プロデューサー。朝日新聞京都支局編・淡交社版「京都の肖像・21世紀への100人」で紹介されたことを機に、自らが選ぶ100人の話上対談を決定、その人選もあらゆる分野に及ぶ。対談を通して、共通のコンセプトなるものを見出して、京都の町、人、を巻き込む、一大イベントを計画している。

なんだ。**富田** ベニスには「ベニス国際映画祭」があるし、絵画では最も有名な「ベニスビエンナーレ展」があるでしょう。京都はさついうことを見習えばいいんですよ。フェイムを媒体として、京都の若い人が中心となって、国際的映画祭とか、音楽祭とかをやつたらいいんだよ。世界の人は東京より京都が好きなんだから。さつすれば京都は、潤うし国際的になる。どうですか？ 御所さん、フェイムがスポンサーをつけてそんなことやってみたら。

御所 さついう意味ではね、例えば世界中のどのミュージシャンに聞いても、「よし、ここでレコーディングしようよ、ここでやろうよ」といわしめるパリュエを持ったスタージオを作りなさいよってさつです。

富田 だからいかにも京都ってなんにもないんだね。世界レベルで文化を、京都が全部担ってしまえばいいんだよ。映画を例にとっても、映画祭が京都であつたら行っても、映画祭が京都であつたら行くもね。世界中が。だから、その御所さんの案もぜひ実現してほしいことですよ。

取材協力/アメリカンバー・パラダイス 京都市中京区六角通り烏丸東入ル大輝六角ビルB1